

日時：令和5年12月25日（月）15時00分から16時55分

場所：四街道市保健センター3階 第2会議室

出席者：

【委員】江崎俊夫（会長）、佐藤光江（副会長）、川口一美、中村嘉孝、長谷川睦美、海保智行、渡部洋
調知博、福田三千男

【職員】荒木寿久社会教育課長、田島衣織課長補佐、柳田一成主事、安藤響香主事

欠席者：1人（北林栄峰）

傍聴人：0人

1 開会（開会の言葉：荒木社会教育課長）

2 会長挨拶（江崎会長より挨拶）

3 会議の公開等

江崎会長の議事進行により、下記についての了承を得る。

①会議は公開とする。

②会議録の作成については、要点の記載とし発言者の氏名を明記する。

③議事録署名人については、押印廃止に伴い、特に署名を求めない。

④傍聴者を確認し、傍聴人はなし。

4 議題

江崎会長：それでは議題に入ります。（1）「第4次四街道市生涯学習推進計画について」事務局より説明をお願いします。

田島課長補佐：下記内容について、資料No1・2に沿って説明
・第4次四街道市生涯学習推進計画（案）

江崎会長：成果指標の矢印が何を示しているかをわかりやすくする何か良い表現があるかどうかのご意見をいただきたいということですね。

荒木課長：数値が上がれば生涯学習の成果が上がったということを示すものではなく矢印での表現はどうなのか等のご意見がありましたことを報告いたします。

江崎会長：ただ今の事務局からの説明について、ご意見、ご質問はございますか。

- 調委員 : 12ページについて、現状値があるのであれば、目標値が必要なのではないかと思います。全て数値で表せるかはわかりませんが。
- 江崎会長 : 矢印ではなく、数値をいれる、目指す先が現状値だけでは見えないということですね。事務局としては、数値を示せるものでしょうか。
- 田島課長補佐 : ある程度数値化できるものをピックアップしていますので数値化できるところが多いかと思いますができないところもあるかもしれません。数値が上がればいいというものではなく、質や量を考えて〇〇を目指しますというような言い方のほうが事業としてはよいのではないかとのご意見もありました。
- 調委員 : 目指す方向3「学校支援ボランティア」には社会福祉協議会のボランティアセンターのことは入っていないのでしょうか。
- 渡部委員 : 入っていないです。
- 田島課長補佐 : ボランティアセンターの人数については、当日資料No. 4のとおり、毎年調査は行っておりますので数値を記載することは可能です。
- 調委員 : 地域づくりをするためには学校支援にだけこだわる必要はないですよ。
- 田島課長補佐 : 学校支援ボランティアは学校・家庭・地域が連携し行っているものです。学校を核にした地域の連携により地域づくりを進めて行くと趣旨があります。また、ボランティア活動については、趣旨を理解し、賛同してくださった市民の方が活動しているので、同じボランティアだとしても少し内容が違うと思います。しかし、ボランティアをしているというのは同じのため、合算してボランティア人数を記載したほうがよければそれも可能です。
- 調委員 : 地域づくりをするために人材育成・活用として学校支援ボランティアだけでよいのでしょうか。
- 江崎会長 : 合算して掲載してしまうとわかりづらくなるため、並列して記載する方法もあるかと思います。
- 田島課長補佐 : 数字もわかっているため問題はないかと思います。
- 佐藤副会長 : 目指す方向のタイトルに地域づくりとなっているので、それについてのボランティアはどこかということをしっかり表すほうがよいと思います。
- 田島課長補佐 : 学校支援ボランティアも地域づくりには欠かせない存在だと認識しております。前回の

計画には学校支援活動事業はなかったもので、特出しさせていただきました。ボランティアセンターも学校支援ボランティアもどちらも人数を把握しているため両方を掲載することに問題はございません。

川口委員 : 数字で表すと多かった、少なかったはわかりやすいが、市民の方からすると増えた、減った以外は漠然としていると思います。増えた減った以外にも、目指す先のビジョンがあるとわかりやすいのかなと思います。

田島課長補佐 : 目指す方向に入っている成果指標の中の学校支援ボランティアについてはピックアップ事業に載せております。どのように成果を上げていったかというのは特出しで見ていくという事業になっていますので、進捗を追っていきたいと思います。

江崎会長 : 22ページに数字は出ていませんが、どのようなことをしているのか取り組みの内容は載っていますね。

田島課長補佐 : ボランティアセンターのことについては、一番上の社会福祉協議会支援事業の中に入っておりますので、追っていくことは可能かと思えます。

江崎会長 : 22ページの内容は質について、になりますか。

田島課長補佐 : 質について調査を行い、一年ごとに見ていくことが可能である事業になります。

江崎会長 : 22ページの四角内、実施する事業・講座・教室などが空欄のところは、新たに事業を考えるとということでしょうか。

田島課長補佐 : 調査を行った際、特出しで行う事業を出してもらったのですが、事業名がそのまま講座名になってしまう場合は空欄になっている事業が多かったです。実施する事業名に書いてもらうよう、依頼すれば可能などところが多いかと思えますので、事務局の方で相談してみます。

福田委員 : 12ページの表の見せ方についてですが、白抜きになっている字が見えにくくなっているのは何か理由があるのでしょうか。

田島課長補佐 : 見えにくいものは製本の際に調整します。

福田委員 : 表の現状値としている部分を前年度実績と表記すれば※の文言を削除できるのではないのでしょうか。

田島課長補佐 : 対応いたします。

江崎会長 : 12ページの矢印はやめて、目標値をいれて掲載するという事で良いでしょうか。

中村委員 : 見る人がわかりやすいのは、現状を表し、より良い方向にしていきたいと目に見えるように表したほうが良いと思います。結果が出なくても理由を説明し改善していくことでさらに良くなっていくものではないでしょうか。

江崎会長 : 事務局としては可能でしょうか。

田島課長補佐 : はい、目標値を入れることは可能です。

調委員 : 総合計画と教育振興基本計画から生涯学習推進計画に影響した部分はありますか。

田島課長補佐 : まだ、公になっていない内容もあるため個人的な意見になりますが、新規事業を調査した際、あまり提出されなかった為、講座等実施している部署に確かめたところ、生涯学習のために行っているわけではないという意見をいただきました。提出された新規事業のほとんどが啓発活動だったというのが特徴かと思えます。チラシを配るだけでなく事業を起こすことにより、体験活動や学習に参加してもらい啓発を兼ねる事業を特出しされているところが多くありました。イベント的な生涯学習活動が出てきたというのが総合計画の特徴だと思えました。教育振興基本計画については、ほとんどの内容に生涯学習の要素が含まれておりました。

長谷川委員 : 目標値が全て出せば良いですがどうでしょうか。

田島課長補佐 : 目標値が出せるものについては記入し、出せないものについては、内容の充実などの言葉を使って表すのはどうかとのご意見をいただいているので、参考にさせていただきます。

江崎会長 : その他にご意見はございますか。

渡部委員 : 7、8ページの国や県の動向は附録に掲載している旨を注意書きのような形で記載するのはいかがでしょうか。

田島課長補佐 : 対応いたします。

調委員 : 9ページの目標値を確認するためのアンケートするのでしょうか。

田島課長補佐 : 教育振興基本計画のアンケートや市民意識調査というのは次期計画の見直しに当たって前年度に必ず行うものとなります。その際に、生涯学習についての内容の設問を要望していきます。

調委員 : 目指す方向にある「地域づくり」と「まちづくり」の違いについて、定義のようなものを入れておくと良いのではないのでしょうか。どの範囲なのか、区分があると認識しやすいと思いました。

渡部委員 : 共通認識を持つということですね。

田島課長補佐 : わかりやすくなるよう工夫します。

海保委員 : 地域づくりをすることによって全体のまちづくりに貢献するというイメージかと思えます。そういったイメージ作りが大切ですね。

佐藤副会長 : 健康インセンティブやデジタルデバインド等、説明の注釈を入れていただくとわかりやすいと思います。

田島課長補佐 : 見慣れない言葉、英語表記については注釈を入れわかりやすく工夫します。

江崎会長 : 他にご意見などはございますか。

調委員 : 13ページの事業等の進行管理についての確認方法はどのようなのでしょうか。

田島課長補佐 : 事業一覧に載っている事業についてはアンケート調査を行います。また、ピックアップ事業については、推進すべき内容や目指す方向に照らし合わせ、事業がどのように進捗しているのか調査します。

江崎会長 : 他にご意見はございますか。なければ次に進みます。資料No.2の確認はよろしいでしょうか。

田島課長補佐 : 特にご意見等なければ、大丈夫です。変更点の確認のための資料となります。

長谷川委員 : 28ページは、資料4が入るといえるのでしょうか。

田島課長補佐 : はい、写真等を追加して差し替える予定です。

江崎会長 : それでは次に、理念・キャッチコピーについて、事務局より説明をお願いします。

田島課長補佐 : 説明の前に資料No.3に3か所訂正がある旨伝達

①キーワード5番目「学びよろこび」ではなく「学ぶよろこび」

②理念6番目「深掘り」ではなく「深掘り」

③理念6番目「思考」ではなく「志向」

田島課長補佐：下記内容について、資料N o 3に沿って説明

・理念、キャッチコピーについて

福田委員：事務局一任はいかがでしょうか。

田島課長補佐：一任となれば、作成することは可能ですが、委員の皆様がどのような考えをお持ちなのかをお聞かせいただきたいです。

江崎会長：キャッチコピーは5ページのところの内容になります。

田島課長補佐：キャッチコピーはもしいらないということであれば、無くても良いかと思えます。

佐藤副会長：基本理念について変えなくても良いのではと思います。

調委員：理念はコロコロ変えるものではないと思います。第3次計画の理念の生涯学習社会という言葉は市民の方には理解しにくいと感ずます。わかりやすくなるよう見直すのはいかがでしょうか。

長谷川委員：キャッチコピーについては必要かと思えます。

田島課長補佐：第3次計画の理念の中で、生涯学習社会づくりは漠然としていてわかりにくく、互学協働は造語ですので一般の方にはわかりにくいというのがあります。わかりやすく読みやすいように見直せるといいかと思えます。キーワードは委員の皆様からいただいているので、理念は概ね変えるものではないとご意見をいただければ、事務局で考えた後、皆様からご承認いただければと思えます。

江崎会長：理念については、そのようにお願いします。キャッチコピーはいかがでしょうか。

佐藤副会長：資料N o 3の5番目の「あそぶ一まなぶ」がとても良いなと感ずます。

江崎会長：遊ぶことと学ぶことがつながるということでしょうか。

海保委員：遊びながら学ぶという考えです。心にゆとりを持って生涯学習をして欲しいというイメージです。

川口委員：どれも良いものが多いので組み合わせるのも良いかと思えます。

佐藤副会長：短い言葉を組み合わせると良いですね。

江崎会長：遊ぶことが学ぶことにつながるというのはすごく大事な事かと思えます。

荒木課長 : 自主的に生涯学習を学んでもらうというイメージがあると良いかと思いました。

江崎会長 : 海保委員提案の「あそぶーまなぶ」をベースにいただき、事務局にお任せでよろしいでしょうか。

田島課長補佐 : 委員の皆様がよろしければ事務局にて検討します。

江崎会長 : 皆様、よろしいでしょうか。

各委員 : 異議なし

田島課長補佐 : 資料N o 1 の5ページについては、キャッチコピーができ次第差し替えとします。

江崎会長 : 資料N o 1 の本誌及び附録の部分を修正していただき、各委員へ送ってください。そのうえで、答申の鑑文をつけて市長へ渡すという流れになります。

田島課長補佐 : 当日資料3を修正があれば再度中身を整えます。

江崎会長 : 答申書について、ご意見はございますか。ご意見がなければこちらでよろしいでしょうか。

各委員 : 異議なし

江崎会長 : それでは、事務局は修正後そのようにお願いします。その他にご意見やご質問はございますか。

江崎会長 : その他ご意見等、ないようですので、以上で議題を終了いたします。それでは議長としての任を解かせていただきます。

5 その他

荒木課長 : 庁内調査を行ったうえで、修正等が入ることが考えられます。修正後、送付いたしますので、最終確認をしご承認いただきたく思います。また、次回の会議は、パブコメ後である令和6年2月頃の開催を予定しております。

6 閉会（閉会の言葉：荒木社会教育課長）